

Magazine of announcing to public of Shuji Kira who makes Oita energetic

KiRAKiRA

PRESS

吉良州司の「きらきら広報」

www.kirashuji.com

2011.01

Vol.12

CONTENTS

- 新年のごあいさつ 01
写真で綴る2010年(前半) 05
南米出張 09
インフラプロジェクト―特集1 12
写真で綴る2010年(後半) 13
尖閣沖事案が我が国に問いかけていること―特集2 17
ようこそ国会へ 21
事務局より

新世紀日本の創造

あけまして
おめでとうございます。
健やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

吉良州司



まず、全国的に吹き荒れる民主党批判の嵐の中でも、否、如何なる状況下にあるうとも常に吉良州司を叱咤激励し、温かくご支援戴いておりますこと、心から感謝いたします。

また、昨年の猛暑の中の参議院選挙におきましては、大逆風であったにも拘わらず足立信也参議を2期目の当選に導いて戴き誠にありがとうございました。

政権交代ある時代の国会運営と将来世代への責任

さて、昨年は民主党新政権にとって大変厳しい1年でした。参院選の敗北により国会は「真正ねじれ」となり、野党が結束して反対すれば法律1本通すことができない極めて困難な国会運営を強いられることになりました。この情勢下、民主党の国会運営は

方向性が定まらず、一方、過去55年間政権党であり続けながら、下野するやいなや、あつという間に反対・抵抗・審議拒否の典型的野党道をひた走る自民党、残念ながらどちらも誉められたものではありません。

ルールを創らなければなりません。そのためにはまず民主党が野党時代の各種委員会質問を含む国会対応について素直に謝ることが必要です。もちろん、政権交代直前の数年については、消えた年金問題、天下り、官製談合、特別会計など、予算使途や官僚依存体質の杜撰(ずさん)さを暴(あば)き、税金無駄遣い根絶に対する国民合意を醸成したことは評

価されるべきだと思います。

一方、自民党は過去の政権党時代の経験から「政権奪還を狙って政府を困らせるだけの国会対応」が如何に無意味か充分わかつているはずで、それ故、典型的野党には絶対ならないとの決意で国会に臨むことが必要だと思います。

その上で、外交・安全保障、成長戦略、年金・医療を中心とする社会保障については「将来世代への責任」という視点を重視しつつ党派を超えて議論・合意形成することが大切だと思います。私はこのことを何も現在が真正ねじれであるから言っているわけではありません。これまでも終始一貫して主張し続けていることです。民主党も与党を経験し、互いに与党も野党も経験した今こそ党派を超えて真摯に議論し、合意形成できると思うのです。

新政権は大きな負の遺産を背負ってのスタート

民主党のこの1年間の政権運営に対する批判については、政権与党の一翼を担う身として真摯に受け止めたと思います。その上で敢えて申し上げたいことは、政

権交代希求の原点である「日本の再生」「国民の生活が第一の政治」の実現は、相当な時間もかかり、国民も忍耐が必要だということです。なにせ842兆円もの借金や、過去15年全く成長のない経済、リーマンショック後の大幅な景気後退と税収減などを引き継いでのスタートです。

今日政権交代して明日急にバラ色に変わるほど世の中甘くありません。何故842兆円もの長期債務を積み上げてしまったのか、何故15年間経済成長できなかったのか、結果として、何故、将来不安が払拭されない社会になってしまったのか、その元凶をひとつひとつ取り除き、将来に夢と希望が持てるような新しい社会の仕組みを粘り強く創っていかなければなりません。それこそが新政権と今を生きる国民の使命だと思います。

今一度国民の声を聴き、野党時代の政策は修正も

そのためにまず民主党は、政権党として今一度真摯に国民の声を聴くことが重要です。何故なら、一昨年8月の総選挙において、国民の多くは民主党の政策・

マニフェスト全てを支持したわけではないからです。自民党支持者の多くも自民党の歴史的使命が終わったことを自覚して消極的ながら民主党を支持してくれました。多くの国民は長期政権による停滞や腐敗に嫌気がさし、新政権によってその膿(うみ)を出し切ってほしいと思っっていました。その切なる願いを民主党に託したのであって、民主党の主張全てに白紙委任状を渡したわけではないという認識を持つことが必要です。民主党はもっと謙虚であらねばなりません。

野党時代に「理想の政策」と信じて訴えてきたことが、政権党だからこそ得られる事実、それも制約要因としての事実に接して、いざ実行するとなると無理があることに直面することもあります。国民全体に責任を負う立場となり、国全体の最大益を志向すれば、野党時代に応援してくれた人達や団体の利益と相反する政策も出てきます。

野党時代に訴えてきた政策ながら現実的に実現が難しいもの、政権奪取を意識して掲げた政策については、きちんと国民に説明をした上で、現実的且つ国民

が求める政策に変更しなければならぬと思います(注:参照)。

与党としての責任ある議論・政治主導の進行

野党時代、安全保障政策では民主党内に大きな主張の違いがあったと思います。しかし、今回、私が事務局長代理として取りまとめに深く関わった防衛大綱に向けた民主党としての提言を議論する過程において、若手議員を中心に、冷静且つ現実的、そして国益重視の成熟した意見、主張が飛び交いました。「武器輸出三原則の見直し」というテーマなど、野党時代であれば「武器輸出」というだけでヒステリックに反対を叫ぶ声がかなり大きかったのですが、今回の議論では圧倒的に少数派でした。代わって主人公に躍り出たのは新人議員を中心とした現実路線、国益重視の主張です。新人議員といっても官僚出身者、安全保障が専門の学者、国際競争の最前線で戦ってきた企業出身者など、専門性に加えよく勉強している議員たちです。平和国家理念を堅持しつつ、国を守るための高

Shuji Kira

い技術水準の武器については（米国ですら、もはや単独で開発・生産することが難しくなっており）世界的潮流になっていく国際共同開発・生産に我が国も参画すべきだという堂々たる議論を展開し、それが提言内容となりました。

このように民主党政策調査会の中では、安全保障、経済、税制、農業、社会保障など与党議員全員参加の部門会議、各種調査会・プロジェクトチームが立ち上がり、与党としての現実に即した熱い議論が展開されています。政府内、党内議論双方とも確実に政治主導の政策創りが進行しつつあります。それも官僚と敵対するのではなく、政治家・官僚間の信頼関係が醸成されつつあり、相互に役割分担しながらの政治主導が進んでいるということを是非ご理解戴きたいと思います。

英国ブレア元首相の言葉とフランス外交官の言葉

昨年の広報誌新年号（11号）の中で英国ブレア元首相の次のような言葉を紹介しました。『政権交代直後は学ぶべきことが非常に多く、最初の1期は「学習期間」になる』『政治主導の強化も大事だが、同時に官僚を上手く使いこなすことも重要。そうでなければ官僚機構に蓄積された莫大な情報・経験が活用できない。政と官のバランスを取ることが大事』。

英国の経験に照らしても、我々民主党は今、上述したように新政権ならではの経験を積んでいることになります。

一方、昨年年末にフランスの外交官と食事をする機会がありました。面白かったのは次のような日本国民に対する見方でした。『フランスは勿論、英国も米国も、

いやほとんどの欧州諸国は自分たちが選んだ政権に対して、たとえ不満があつたとしてもその任期中は我慢強く見守る。新政権が掲げた政策はその任期の中での実現を約束するもの。もし不満が解消されなければ次の選挙で選ばないだけだ。日本人は何故、自分たちで選んだ政権をすぐに変えたがるのだろうか』と。

冒頭に申し上げましたように、新政権の至らないところは真摯に受け止めますが、生みの親として忍耐強くじつくりと見守り、そして大きく育てて戴ければ幸いです。

ポピュリズムとの決別

最後に、今の国会議員の使命について持論を述べます。

時代の変化は誰のせいでもありません。しかし、時代の変化に対応できないのはリーダーの責任であり、国家の場合は政治の責任で

す。自民党が戦後復興と高度成長期の成功物語の最大の功労者でありながら、最後は莫大な負の遺産を国民に残して下野せざるを得なかった一番の原因は、その成功体験が足かせとなって「グローバル化」と「少子高齢化」に対応できなかったからです。この変化は誰のせいでもありませんが、ある時期からは明らかに予見できた変化です。不退転の決意で臨めばこの変化に対応した意識改革やシステムづくりができたはずです。しかし、ポピュリズムの誘惑に負けて結局対応できませんでした。我が国は今生まれ変わらなければなりません。だからこそ国民は新政権を誕生させてくれたのです。「日本を生まれ変わらせる」その先頭に立つ使命を私たち新政権に携わる国会議員に与えたのです。その新政権が内閣支持率を上げること

に熱を上げているようでは使命を果たすことなどできません。今は



支持率なんかどうでもいい。やるべきことをやれば結果はついてきます。100年後の歴史が評価してくれるという信念を持って、消費税率アップのような不人気な政策であっても、それが国家百年の大計であるならば、不退転の決意で実現する使命があると思うのです。『全員次の選挙で討ち死にしても構わない』という覚悟で時代を動かさなければならぬと思うのです。私は初当選以来、常にポピュリズムとは正反対の政策を訴えてきました。どれだけ感謝してもしきれないのは、そんな私を支援者のみなさんが常に支え続けてくれた

ことです。私心なく、ひたすら国と子孫の安寧と繁栄を願い、訴え続ける限り、ポピュリズムと戦い続ける勇気を与えてくれるのです。

今年も内閣支持率を過度に気にする本末転倒政治と戦い、世のポピュリズムと戦い、将来世代への責任を果たす政治、そして新世紀日本の創造に向けて全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

今年もみなさんにとって素晴らしい年でありますようにお祈りしております。

吉良州司

〔注〕「野党時代の政策は修正変更も」の文章は、吉良州司が「民主党が掲げる政策」を全く評価しておらず、いわゆる下記「4K」政策の変更を主張していると誤解される可能性があります。私は理念としては間違っていないと思っています。

子ども手当（広報誌11号で特集）

は子育て家庭への家計支援策であり、①歳入庁設立時に所得制限導入、②15年程度の時限立法、を条件に賛成です。

高校の無償化は、大学進学者への奨学金制度の充実とセットで、親の経済力によって子供の学習・進学の権利を奪ってはならないと

の理念に基づく政策であり推進すべきです。

高速道路（広報誌10号で特集）は、大都市とその周辺地域を除き無料化すべきです。地域活性化と物流コストの低減、利便性向上にも貢献します。

戸別所得補償制度は「国を開く」

こと（EPA/FTAやTPPを含む広域経済連携の推進）の前提として農業、農業従事関係者を守り育てる意味から必要だと思えます。

右記いずれの政策も、無駄の削減、優先順位の低い政策の不採用（組替）、消費税率アップ等により財源を確保しなければなりません。

Shuji Kira

写真で綴る 2010年 前半

March 3月

3日



外務省政策会議で「アジア太平洋州大使会議」をテーマに、中国、インドネシア、韓国などアジアの駐在大使の方々が集まり、各国の情勢について意見交換しました



EPAシンポジウム昼食会で、EPAの重要性など、冒頭挨拶を行ないました

17日

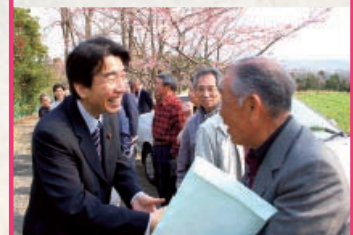


駐日南アフリカ大使館主催の「日・南ア交流100周年オープニングレセプション」に出席し、政府を代表し今後の日・南ア関係の益々の発展を祈念する旨を述べ乾杯の音頭をとると共にグローバル南ア大使とケーキカットしました

22日



挟間の「森山荘」でのお茶の間集会後の記念撮影



つぼみもほころび始めた桜の下で激励を受ける

23日



中国歴史研究者等代表団の表敬を受けました。個人の見解も含め自由闊達な意見交換を行いました



支援者のお店「アルバム」で昼間、お茶の間集会で若い方たちと意見交換し終了後お店の前で記念撮影



支援者の田中さんのお宅にて支援者集会



お茶の間集会後の記念撮影

7日



アッバスパレスチナ自治政府大統領を出迎え

来日したアッバス・パレスチナ自治政府大統領を羽田空港にて吉良州司が日本政府を代表して温かく出迎えました

13日



日田市で行われた大分西部郵便局長会通常総会で挨拶する様子

16日



大分より電力総連の皆さんが、国会見学に訪れ、途中、政務官室にも来ていただき、意見交換しましたが、みなさんが政権交代を実感するひと時でもありました

17日



ウィルファート加日議連共同議長(下院議員)、ニューフェルド上院議員が表敬に訪れました

23日



イスラム世界との文明間対話セミナーレセプションに出席し、レセプションの冒頭で世界的な文明を有するアラブ世界と独自の文化を持つ日本が文化的な交流を深めていくことの重要性を訴えました

19日



在日米軍オリエンテーションプログラム参加者との朝食会に参加し、冒頭、歓迎の挨拶を英語で行い、その後忌憚のない意見交換を行いました

23日



エジプト、イスラエル、パレスチナ、トルコから中東若手外交官が来訪し、日本と中東との関係、日本の中東政策などについて幅広く意見交換を行いました

写真で綴る 2010年

前半

【吉良州司 2010年 活動報告】

2010.1 ▶ 2010.12 Photograph Report

January 1月

南米出張
1月18日~26日

ブラジル 19日



ゲーハ文官長府副大臣、パソス運輸大臣代行、ベルナルド国家陸運庁長官とブラジル高速鉄道計画につき幅広く意見交換を行いました

16-17日



FEALCA(アジア中南米協力フォーラム)に出席

国際金融機関との対話という会議ではアルゼンチン外務大臣と共に共同議長を務めました

2010年はNHKの夜9時のニュース番組の生出演から始まりました

5日



NHK ニュースウォッチ9
本番直前のキャスターとの打ち合わせの様子

南米出張
1月18日~26日

ボリビア 22日

日本政府特使としてボリビア新大統領就任式に出席。モラレス大統領主催昼食会で、モラレス大統領と日・ボリビアの二国間関係等について意見交換



モラレス大統領との会談を終えた後、地元マスメディアに囲まれ取材を受ける吉良州司

12日



アルール在京モロッコ大使と、経済・観光・学術・経済協力・政治等、日・モロッコ関係全般につき意見交換を行いました

13日



アマード・ブラジル外務省エネルギー先端技術担当副次官とデジタルTVの日伯方式の普及、ブラジル高速鉄道等について意見交換を行いました

14日



インドネシア・イスラム寄宿塾教師一行。日本の教育、経済発展、女性の役割、伝統文化等について様々な質問がなされ、吉良政務官より一つ一つ丁寧に説明しました

6日

February 2月



学生主催シンポジウム(大分大学)での講演
「地域主権」、「地域づくり」に関して次代を担う優秀な若者を相手に1時間熱弁を奮いました

14日



ドイツ副首相来日
ヴェスターヴェレドイツ副首相の鳩山首相への表敬訪問に吉良政務官は同席

21日



東九州自動車道早期実現の政策要望

西嶋佐伯市長より東九州自動車道早期整備に対する政策要望の説明が馬淵国交副大臣（当時）並びに吉良州司県連代表に行われました

23日



わさだ地区、支援者宅でのお茶の間集会

集会では実際に今民主党が取り組んでいること、現在進行中の事実など普段マスコミには出てこない話をすると、皆さん熱心に聞き入り、集会が始まる前は「民主は何をしようのか!」という雰囲気だったのですが、話の後には、皆さんからは口々に「そういうことやったんか、納得や。そりゃ一民主も大変じゃのー」という様子の変化までみられるほどでした

23日



宇目集会

日曜日の夜にも関わらず、100名近い方々が参加して下さり、活発な意見交換をさせていただきました

29日



岩国航空基地において新滑走路運用開始式が行われ、外務省を代表して参列しルース駐日米国大使、福田岩国市長等と共にテープカットを行った上、日米防衛関係者と懇談しました

24日



「日韓関係の新たな100年企画」第1回フォーラムに出席し、冒頭外務政務官として挨拶をしました

30日



仙谷大臣と経済5団体との意見交換会

仙谷国家戦略担当大臣（当時）と商工会議所など大分県内5つの経済団体代表との意見交換会を行い、席上、県連代表の吉良州司は「国家成長戦略を担う地域経済の現状を率直に議論したい」と挨拶を行いました

May 5月



大分市内の喫茶店でミニ集会を開催しました

外交関連、諸々の政治問題などについてお話し、参加して下さいた皆さんからは「TVや新聞では聞けない話を聞けてよかった」と口ぐちに仰って頂きました

15日



国土交通委員会にて外務大臣政務官として答弁を行いました



平成22年度中国高校生訪日団第1陣歓迎レセプションに外務省を代表して挨拶をした後、交流を深めました



支援者の嶋さんのお宅でミニ集会を開催しました

30名を超える支援者の方々が、熱心に話を聞いてくれました



民主党大分県連幹事会勉強会の第1回目の講師として吉良州司が国際情勢や国家情勢など講演しました

20日



カナダ国西部三州首相（エドワード・ステルマック・カナダ国アルバータ州首相、ゴードン・キャンベル・同国ブリティッシュ・コロンビア州首相及びブラッド・ウォール・同国サスカチュワン州首相）による表敬を受けました

21日



経済産業委員会で佐藤茂樹議員より質問があり、外務大臣政務官として答弁を行いました

24日



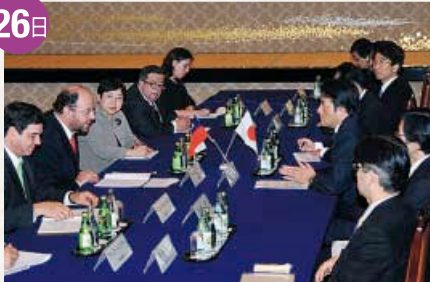
横瀬公民館集会開催

40人ほどの支援者の皆さんがお集りになり、吉良州司の話を熱心に耳を傾けてくださり、集会終了後には、吉良がお1人お1人と握手をさせていただきました

日・チリ外相会談に同席致しました

冒頭モレノ外相より、先日チリ訪問と、地震災害に対し、日本政府、日本国民、日本企業からの多大な支援に対し感謝の意が述べられました

26日



総理表敬同席

メリドール・イスラエル副首相兼諜報相による鳩山総理大臣への表敬訪問に同席致しました

27日



記者会見

外務省政策会議について記者への丁寧なブリーフを行ないました

May 5月

11日



国土交通委員会にて外務大臣政務官として答弁を行いました

March 3月

25日



ダシゼベグ・モンゴル国家会議議長経済政策顧問の表敬を受け、今後の両国関係の良好な発展等について意見交換を行いました

29日



サルダーニャ・カリフォルニア州下院議員の表敬を受け、カリフォルニア州と日本との間で国際交流を進めていくことを確認しました

31日

法務委員会で他国との条約に関連しての質問がなされ、外務省を代表して答弁致しました



3日

April 4月



明野地区集会

いつも熱く、温かく、時には厳しい叱咤激励をしてくれる明野軍団の皆さんと、お茶の間集会を終えて、記念写真

14日



吉良州司が小さい頃から可愛がってくれた親族の皆さんと、公務の合間に、久しぶりの再会に話を弾ませました

23日



ジャック・ディウフ国連食糧農業機関（FAO）事務局長と世界の食料安全保障の現状と我が国の農業関連分野における取組について意見交換を行いました

22日



高校の大先輩（舞鶴2回生）たちと意見交換する吉良州司



大統領就任式のためコロンビアを訪れていたチリのモレノ外相と会談。冒頭モレノ外相から「実はピヌラ大統領と一緒にコロンビア入りしたのですが、母国チリでの地震発生の連絡を受け、大統領はそのままチリに引き返しました」と。その場でお見舞いの言葉を述べるとともに「日本政府は、いつどんな時も、あなたがたのそばにいますよ」と直接(英語で)申し上げると、大変感激し感謝されました



チリ大統領就任式の様子



コロンビア大統領就任式直前の会場の様子(左は寺沢大使)

たった一人の南米出張

因みに、この後2回、政府特使として南米出張(3月のチリ大統領就任式と8月のコロンビア大統領就任式)がありました。3月の出張の際は、経費節減等諸々の事情もあり、日本からはなんと吉良州司ただ一人が出張し、

着しましたが、普通なら「あーやっと帰ってきた。ゆっくり布団で寝たい!」と、皆さん思うでしょうが、なんと外務省では既に通常の公務の予定が組まれており、成田空港からそのまま外務省に戻り、結局この日は夜遅くまで公務をこなしました。

感動的な再会

久々のチリで感動的な出会いがありました。立ち寄った在チリ日

現地での出迎え対応ということも経験しましたが、この時は7日間のスケジュールで2泊4機中泊という、更に過酷なスケジュールでした。勿論、搭乗時間と三重苦は当然経験しました。そんな中、この時は中継地点のアメリカでも、米州全体を統括する日本企業のトップと、成長戦略に関わる中南米対策につき幅広く意見交換を行なうなど、全く無駄のないスケジュールをこなし、また一人で帰国しました。

本大使館内で、現地のチリ人の一人が、じつと私を見ているのです。私も彼の存在に気付き目が合うと、どちらともなく駆け寄って抱き合いました。クラウディオとの再会です。彼は、現在、在チリ日本大使館の大使運転手を務めています。クラウディオは元日商岩井チリ会社の社長運転手を務めてくれたいた真面目な働き者で、私がニューヨークからサンチャゴに出張する時は必ず世話になっていた恩義あるチリ人です。先方も出張者であったに過ぎない私のことをよく覚えてくれていて、お互い、涙を浮かべながら抱き合って再会を喜び合いました。その際にクラウディオが私に言ってくれたことが心に響きました。「自分(クラウディオ)は、日商岩井という日本企業で働きながら、人との接し方、仕事に取組む姿勢など、多くのことを学ばせてもらって今がある。日本のため、チリのため、日本・チリの良好な関係のため、忠実に働くチリ人がここにいるということをは非覚えておいてほしい」と。私は人を肩書きで判断する人、また、そのような社会の風潮に対してずっと疑問を持ち続けてきた人間です。その意味では既存社



モラレス大統領との会談を終え部屋をでたところ、今後の日本とボリビアとの関係など、会談内容について地元記者団に囲まれ、質問を受ける吉良州司



大統領就任式レセプションでモラレス新大統領と固い握手



ボリビア大統領就任式レセプションの様子



ボリビア大統領就任式パレード

南米出張

SOUTH AMERICA AN OFFICIAL TRIP

1月18日~26日までの9日間、政府特使としてボリビア大統領就任式出席など南米出張に行き参りました。今回の出張も相当ハードなスケジュールで、日本からアメリカやヨーロッパに行くのも大変ではありますが、地球の裏側の南米、特にボリビアとなると、更に大変で、ハードなスケジュールに加え「三重苦」が襲いかかります。その三重苦とは「時差」「温度差」「標高差」であります。

今回の出張のメインであるボリビア大統領就任式出席のために滞在したボリビアの首都ラパスは、空港が標高4000m、市内も標高3600mと、富士山(3776m)の頂上かその上に位置し、酸素が平地の2/3しかないような場所です。加えて、南半球のため季節は日本と真逆の夏です。そして時差も真逆の13時間です。

今回の出張の、会談内容はこちらで紹介できませんが、出張スケジュールを以下にご紹介致します。

2010年1月の南米出張スケジュール

18日(月)

17:15 成田発(所要時間9時間5分)
10:05 ロサンジェルス着
12:30 ロサンジェルス発(所要時間12時間15分)
(機内泊)

19日(火)

06:45 サンパウロ着
08:25 サンパウロ発(所要時間1時間47分)
10:12 ブラジリア着(ブラジルの首都)
午後 ゲーハ文府副大臣との会談
パソス運輸大臣代行との会談
(サンパウロ泊)

20日(水)

午前中 アレンカール副大統領との会談
ジャグアリーベ外務省副次官主催昼食会
午後 アモリン外務大臣との会談
イイホシ伯日国議員連盟会長等との夕食
(サンパウロ泊)

21日(木)

11:30 ブラジリア発(所要時間1時間35分)
13:25 サンパウロ着
17:00 サンパウロ発(所要時間2時間45分)
17:48 サンタクルス着
19:00 サンタクルス発(所要時間1時間)
20:00 ラパス着(ボリビアの首都)
(ラパス泊)

22日(金)

午前中 チョケワンカ外相との会談
大統領就任式典出席
モラレス大統領主催昼食会
JICA専門家・協力隊員との懇談
(ラパス泊)

23日(土)

午前中 モラレス大統領表敬訪問
午後 キンタナ前大統領府大臣との会談
ゴメス鉱山冶金大臣との会談
在留日本人・日系人との懇談
(ラパス泊)

24日(日)

07:55 ラパス発(所要時間9時間10分)
16:05 マイアミ着
並木マイアミ総領事との面談、意見交換
(マイアミ泊)

25日(月)

06:20 マイアミ発(所要時間3時間15分)
08:35 ダラス着
10:10 ダラス発(所要時間13時間25分)

26日(火)

14:35 成田着



ブラジル外務省の若手官僚からの質問に答える吉良州司



ブラジル副大統領(当時)とブラジル(伯国)の現状をお聞きすると同時に、今後の日伯関係について、意見交換しました

インフラプロジェクト

infrastructure project

みなさん、「インフラプロジェクト」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「インフラ」はご存知だと思いますが、空港、港湾、道路、橋梁、鉄道路線、上水道、下水道、電力、ガス、電話など社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するものの総称で、正しくはインフラストラクチャーと呼ばれており、略して「インフラ」と言われています。

急成長のアジアのインフラ重要

ここ数年、高成長が見込まれるアジアを中心に世界で旺盛なインフラ需要が存在しており、先進国でも原子力発電や高速鉄道など、環境面、安全面で優れた技術を導入・活用したインフラ需要が高まっています。年率平均5.2%で成長を続けるアジア地域だけでも2005～2030年でインフラ投資ニーズ（エネルギー関連分野）は6兆ドル～8.3兆ドル（円換算498兆円～689兆円）に達する見込みで、このアジアのインフラ需要を如何に取り込むかということが、世界の主要国の課題であり、特に国内需要頭打ちの日本経済にとって至上命題と言っても過言ではありません。日本企業は海外向け原子

世界の主要国は官民連携して海外展開

フランス、韓国、ロシアは国を挙げてインフラプロジェクト受注体制を敷き、激しさを増す国家間競争の中で、我が国も「新成長戦略」の中で「インフラビジネスの海外展開」の強化・推進を打ち出しています。その目玉政策として、新たに世界の在外公館に「インフラプロジェクト専門官」を設置することが決まりました。その役割は各在外公館においてインフラプロジェクトに関する情報を収集・集約すると共に、国際協力銀行や日本貿易保険などの関係公的機関や商工会等との連絡・調整に際して窓口となる等、日本企業のインフラ海外展開のサポートを担当します。

外務省でインフラプロジェクトの講演

先達て吉良州司は商社マン時代にインフラプロジェクトを数多く手掛けてきた経験（ニューヨーク時代の肩書きはインフラ・プロジェクト部長です）から外務省より依頼を受けて、新規に任命されるインフラプロジェクト専門官向けに最新の海外インフラプロジェクトビジネスについての参考書を執筆し、昨年11月2日（既に外務大臣政務官の職は辞しておりましたが）には、外務省内でインフラプロジェクトに携わる外務省スタッフの皆さん向けに講演を行いました。

講演の詳細までは紹介できませんが、大きくポイントとして――

■今世界のインフラビジネスでの潮流は、「輸出から事業投資」に移りつつあること。
■事業投資とは、企業が資金だけをつぎ込む単なる投資だけでなく、人やノウハウも提供し、かつ積極的に実際に事業に関わっていくことで投資収益を得るという投資形態であること。

■高度経済成長期からある段階までの日本は海外への「物の輸出」が常

講演映像は世界の外公館へ配信

今回は、講演に加えてインフラプロジェクト専門官向けに用語集付きのテキストも作成し、講演の映像は外務省に記録保存された上、全ての在外公館に配信される予定です。今後、吉良州司の講演記録を見、テキストを読んで頂くことになるであろう方々が、未来の日本の海外インフラプロジェクト獲得のために全世界で奮闘、活躍されますことを心より願います。

天災との再会

チリでは大統領就任式に出席しましたが、式典の前日にビニエラ新大統領に、過日の大地震のお見舞いを申し上げ、大統領からは日本政府からの援助と、また現地日本企業からの援助に謝意を言われましたが、その翌日の大統領就任式の最中にM7.2（現地報道）の地震が発生しました。

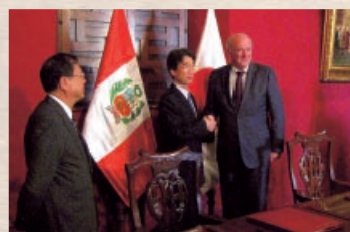
就任式の進行中に突如起きた大きな揺れに、国会内はパニックに。出席者の多くが慌てふためき、会場の外にまで逃げ出す人もいて、就任式はしばらく中断せざるを得ない状況でした。そんな中、大統領の真向かいに座っていた吉良州司は、地震に慣れていることもあったのでしよう、「照明や花が揺れているなあ」、「参列者のみなさんは結構動揺しているなあ」とじつと椅子に座ったまま、客観的に会場の状況を観察し、全く動じなかったようです。この様子が現地のニュースなどで何度も放映され、翌日のチリ外務大臣との会談の際「Mr吉良、昨日の就任式の地震の際、席も立たず悠然と座っていたのは、あなたただ1人だった。素晴らしい！」といわれたそうです。

因みにチリの大地震は1985年3月1日以来なのですが、吉良州司の1回目のチリ訪問も25年前のまさにその日、地震に遭遇しており、何とも奇遇の再会でした。商社時代、ニューヨーク駐在中、担当地域であった南米には何十回と出張に行っていました。その

南米との懸け橋に

このように、南米出張は3重苦、4重苦ではありますが、南米と日本は移住者はじめ、つながりが深いことと、南米の国々は非常に親日的であります。加えて、鉄鉱石、銀、銅などの鉱物資源や話題のレアメタルなど今資源問題が深刻な中、南米は資源豊富な地域でもあり、資源のない日本にとって、これから更に重要な地域となることは間違いありません。

このような地理的「苦難」はありますが、今後も日本と南米の関係強化に努めて参りたいと思います。



橋梁援助の「交換公文」署名式を終え、ガルシア・ベラウンデ外相と握手



日本からペルーに対して橋梁の援助の説明をする様子（左は目賀田大使）



日本―ペルー議員連盟会長と懇談する様子



入居者を代表して挨拶をされた94歳のおばあちゃんと、ペルーに来てから苦労した話や、日本の懐かしい話をする様子。吉良州司からは「随分とご苦労をされましたね」と



在ペルー日系人の養護施設を訪問し、最近の日本の話に熱心に耳を傾ける方々の様子

August 8月



3日

ロドリゴ・ジャニェス・チリ大統領国際担当顧問と、3月に吉良が大統領就任式に特派大使として訪問した際の話、またチリとの二国間関係の一層の強化に向けて意見交換しました

外務省記念日祝賀会

外務省で35年以上勤務され退職した方々（25名）と25年勤務された方々（110名）に対し、表彰が行われました。吉良政務官から乾杯の挨拶をし、これまでお世話になった職員の方々と暫し交わりの時をもちました



14日



16日

アラグチ在京イラン大使主催のファトラヒ・イラン外務次官との昼食会に出席し、核問題を含む幅広い問題について率直に意見交換をしました



にじが丘夏祭りで地元支援者の方と記念撮影



17日

OBS国会議員討論会の収録直前、緊張感の高まった様子



18日

トキハ前交差点での街頭演説
すでに猛暑となった7月、暑さに負けず政策を訴える



トレス・チリ新大使の表敬訪問

今般着任したトレス・チリ新大使の表敬を受け、今後の日・チリ関係強化に向けて意見交換しました



22日

世銀副総裁の表敬訪問

来日したトロツェンバーク世界銀行副総裁の表敬を受け、途上国支援における重点や世銀との協力関係等について意見交換しました



7日~

3回目の南米出張
8月7日~

ベルムデス外務大臣との会談8年間のウリベ政権下で築かれた治安回復及び経済発展を基礎に、二国間関係をさらに強化したいとのメッセージを伝達しました



コロンビア・サントス新大統領と



コロンビア大統領就任式典に日本政府特派大使として出席しました



ニューヨーク進出日本企業関係者との懇談

中継地アメリカで、米州を総括するニューヨーク進出企業関係者と個別に懇談し、成長戦略に係る意見交換及び各社の中南米を含む米州戦略に係る意見を聴取しました



20日

フィル・ゴードン米アリゾナ州フェニックス市長の表敬を受け幅広い日米交流強化に向けて意見交換しました

June 6月

2日



東芝労組の方々が国会見学に来られ、この日は外務省を空けられない為、政務官室に来ていただき意見交換しました



12日

きらきら会の集会をコンパルホールにて開催致しました

参議院選挙も間近に控え、きらきら会の集会を開催し、会場は参加者で一杯となりました。ゲストとして足立信也参議の奥様が参加し、皆さまにご挨拶しました



1日

July 7月

コロンビアのプラタ商工観光大臣の表敬を受け、経済関係を中心に今後の日・コロンビア関係の在り方について突っ込んだ意見交換をしました



ザイナル外務担当上級国務大臣との会談

シンガポール外交を統括するザイナル・シンガポール外務担当上級国務大臣と初対面にもかかわらず会談は1時間近くにも上り、アジア経済、世界経済、我が国の政治情勢等の幅広い話題について忌憚のない意見交換を行いました



ASEAN日本商工会連合等との官民合同会議

ASEANに赴任中の大使、JETRO、商工会議所幹部等を集めた官民合同会議に外務省を代表して参加し、冒頭挨拶を行うとともに6月18日に閣議決定された新成長戦略につき説明しました。参加者は民間での経験が豊富な吉良（政務官）の話に熱心に聞き入り、活発な質疑応答が行われました



レセプション

官民合同会議に引き続き行われたレセプションで、外務省を代表して挨拶を行いました



13日

大分県内市町村長など幹部職員約50名に対する「政府の推進する地域主権について」の会合の冒頭、県連代表として挨拶を行いました

行政事業レビュー公開プロセス

事業仕分けの前に、各省庁が事業の無駄を自ら洗い出す作業のことで、外部有識者と共に評価委員として評決に参加しました



14日

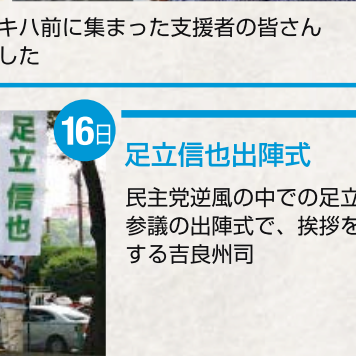


19日

足立信也参議決起集会にて冒頭挨拶を行いました



足立信也参議の決起集会の後、トキハ前に集まった支援者の皆さん一人ひとりに支援のお願いをしました



16日

足立信也出陣式

民主党政権の中での足立参議の出陣式で、挨拶をする吉良州司



外交・安保に関して取材を受ける様子



10日



24日

第1回外交安保調査会総会で、事務局代理として、総会で司会をする様子



12日

外務委員会理事として臨時国会に臨みました



2日

国連 PKO局長ルロア氏との意見交換会

吉良は司会を務め、ルロア氏からハイチの日本のPKO部隊の評価が大変高いとの話がありました



8日

舞鶴OBを中心とした在京有志の方々主催の「吉良州司を囲む会」に招かれ、講演する様子



10日

TBSニュースバード 国会トークフロントライン出演

日本の外交問題を中心とした質問に、外務大臣政務官の経験と持論を織り交ぜながら答えました



13日

第二回外務部門会議

吉良座長が冒頭挨拶を行い、続いて前原大臣が部会で政府の外交方針についての挨拶を行いました



7日

第一回外務部門会議開催

吉良州司は外務部門会議の座長として、第一回目の外務部門会議を開催致しました



16日

賀来中学校の武道場で地区集会



隊友会九州・沖縄ブロック研修会での挨拶



詳しいお話を聞きたいという方へ吉良州司が説明



17日

判田台公民館で、車座になって参加者の皆さんと意見交換する様子



4日

TPP(環太平洋パートナーシップ)の党内意見の取りまとめに奔走しました

民主党政調が設けた「APEC・EPA・FTAプロジェクト・チーム(PT)」における16回に亘る喧々譁々の議論を経て、4日夜、提言書を玄葉政調会長に渡しました。写真は取り纏めのための会議の様子となります



2日

外務省にてインフラ海外展開に関する講演会を行いました。吉良自身商社マン時代、インフラの海外輸出に深く関わっており、約1時間の講演の後、活発な質疑応答が交わされました



7日

エクアドル大使館主催により、コレ・エクアドル大統領をはじめ関係閣僚が出席した投資セミナーが開催され、日本側を代表して冒頭挨拶をしました



日・エクアドル首脳会談同席
来日したコレ・エクアドル大統領、菅総理大臣との首脳会談に同席しました



27日

建白書提出後の記者会見

尖閣諸島沖で生じた中国漁船衝突事案に関し、吉良州司と長島昭久前防衛大臣政務官を代表世話人とする民主党国会議員有志43名が、菅総理宛建白書を作成し、仙谷官房長官に手渡した後記者会見を行いました

BSフジ
プライムニュース出演

BSフジのプライムニュースに出演しました。番組では反町キャスターより建白書を政府に提出した意図や建白書の内容について問われ、一つ一つ丁寧に説明しました



October 10月

5日

APEC・EPA・FTA対応検討会議

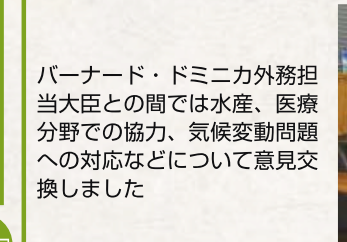
第一回目のAPEC・EPA・FTA対応検討会議が開催されました。吉良は副座長として会の運営にあたっておりますが、この会議は菅総理が積極推進を検討しているEPA・FTAを日本の農業を守りながらどのように対応を検討・議論するかという会議です

September 9月

1日



スリナム駐日大使、ジャマイカ大使兼カリコム担当大使との間では、カリブ地域との関係強化、水産分野等での協力、国際場裡における協力について意見交換をしました



バーナード・ドミニカ外務担当大臣との間では水産、医療分野での協力、気候変動問題への対応などについて意見交換しました



ドゥラトゥール・ハイチ観光大臣との間ではハイチ地震復興について先方から深甚なる感謝があるとともに、今後の復興支援に関し、率直な意見交換をしました



2日

日・カリコム公開シンポジウムに出席し、開会に当たりカリブが直面する気候変動問題は地球規模の問題であり、日本としても積極的に取り組んでいく旨挨拶しました



シンポジウム終了後、カリコム代表者と岡田大臣とともに記念撮影



5日

党員・サポーターの方々に対し民主党代表選挙に関する説明会を行いました。会場は立ち見が出るほどの盛況ぶりでした



3日

国連大学で初めて大学院のコースが開設されたことを記念する式典に出席し、外務省を代表して歓迎の挨拶をしました

菅政権への建白書—国益の旗を堂々と掲げ、戦略的外交へ舵を切れ!

民主党衆参国會議員有志 平成22年9月27日

1、はじめに

沖縄県尖閣諸島沖で起こった中国漁船衝突事案をめぐる今回の結末は、日清戦争後の三国干渉に匹敵する国難である。日本の政治家、いや、日本国民として、まさに痛恨の極みである。しかし、同時に、すべての責めを現政権にのみ帰することもできないと考える。すなわち、台頭する中国への戦略的対応を怠り、我が国領土への理不尽な挑戦を拒否する断固たる姿勢を欠いたこれまでの日本政治そのものが招いた危機であったといわざるを得ない。

したがって、私たちは単なる現政権批判には与しない。もちろん、国民の間に「弱腰」「屈従」という非難が巻き起こっていることも認識している。同時に、その苦渋の決断に至るまでには、政府でなければ知り得ない判断材料があったことも想像に難くない。にもかかわらず、今回政府が危機回避を企図して行った一連の措置は、少なくとも三つの意味で将来に禍根を残すものであったとの深刻な憂慮を禁じ得ない。

2、事案解決における三つの憂慮

第一に、あくまでも法と証拠に基づいて肅々と法執行を貫徹すべき検察が、「今後の日中関係」という高度な政治判断を行うなどということは、本来あってはならないことである。従って、政治的な意思決定なしに行政機関たる検察が独断で判断したと信じている国民は殆どおらず、総理はじめ閣僚が「検察の判断」と繰り返すことは却って責任転嫁との批判を免れない。このように中国からの圧力によって国内法秩序が歪められてしまったことは、今後、類似の事案における法執行に悪影響を与えるおそれがある。

第二に、今回のような事案の解決には、短期的な危機回避とともに、中長期的な東シナ海の海洋秩序づくりという視点が必要であったが、その点でも政府の意識は希薄であったといわざるを得ない。不透明な決着は、結果として、日本の尖閣領有という歴史的事実を真つ向から否定する中国政府の主張を明確に

3、今後の課題

今回の結末は、我が国の国力の実態と対中戦略の欠落という現状を鋭く反映している。長年にわたり、尖閣諸島に対する不十分な実効支配を放置し、レアアース等戦略資源の供給や市場を中国に過度に依存し続け、「戦

●総合的安全保障体制の確立

官邸を中心に、軍事安全保障、経済安全保障、資源エネルギー安全保障、食料安全保障、情報安全保障の5本柱を包括する総合安全保障戦略を策定、実施していく体制を早急に確立すべき。とくに日米同盟の深化と並行して、我が国の自主防衛態勢の強化を急ぐべき。

●ロシア、ASEAN、中央アジアへの関与戦略の確立

中国との友好関係を堅持すべきことは当然であるが、過度な中国依存を避けると同時に対中牽制の意味（現代の「遠交近攻」策）から、ロシアとは、早期に

韓国

尖閣諸島

中国

上海

台湾

西表島

石垣島

東シナ海

尖閣諸島

魚釣島

フィリピン海

奄美大島

徳之島

沖永良部島

与論島

久米島

日本

大分

特集2

尖閣沖事案が我が国に問いかけていること

国民のみなさんの不満と不安

昨年9月、尖閣沖において領海侵犯したことに對して、中国漁船を拿捕、船長を逮捕、そして拘留延長の後、船長釈放。その後海上保安庁職員によるビデオ流出、という一連の事件の詳細については、改めて説明するまでもなく、みなさんご承知のことだと思えます。

多くの国民の皆さんは、この政府の対応に、不満と不安を感じたのではないのでしょうか？中国漁船船長釈放直後には「弱腰外交」「屈辱外交」という非難を、我々与党議員も随分浴びせられました。

我々民主党議員の中にも、当然皆さんと同じ思い、いやそれ以上の思いを持つ国会議員がたくさんいます。船長釈放のその日（9月24日・金曜日）、国会内は騒然とし、そして週末に地元有権者の意見を聞くと同時に、議員同士、意見交換しながら、今回の一連の政府対応に

對して行動を起こそうという雰囲気が高まりました。

“建白書”提出

週明け、早々に政府の対応に對する非難声明をだしたグループもありましたが、しかし、我々民主党は今や与党であり、政府を支える立場であるので、単なる政府批判には与しない、国民の疑問、疑念、懸念を率直に政府に伝え、同時にこの事案を契機に臥薪嘗胆の故事に倣い、凛として自立する国へと生まれ変わる契機とすべく、8項目に亘る建設的な提言を、吉良州司と長島昭久議員を中心とした計43名の同志とともに、“建白書”というかたちで菅総理に提出いたしました。

時間の経過とその後の動向などから、若干違和感を覚える部分もあるかもしれませんが、当時の建白書をそのまま以下に紹介いたします。

戦略的互惠関係」という抽象的なスローガンに胡坐をかいて、増大する中国の経済力や影響力に對し長期的な視点で具体的な関与戦略を構築して来なかったツケを一気に支払われたと解さざるを得ない。

そこで、今回の教訓を「臥薪嘗胆」として、以下、今後政府が優先的に取り組むべき課題を列挙し、提言としたい。

●総合的安全保障体制の確立

官邸を中心に、軍事安全保障、経済安全保障、資源エネルギー安全保障、食料安全保障、情報安全保障の5本柱を包括する総合安全保障戦略を策定、実施していく体制を早急に確立すべき。とくに日米同盟の深化と並行して、我が国の自主防衛態勢の強化を急ぐべき。

●ロシア、ASEAN、中央アジアへの関与戦略の確立

中国との友好関係を堅持すべきことは当然であるが、過度な中国依存を避けると同時に対中牽制の意味（現代の「遠交近攻」策）から、ロシアとは、早期に

我が国に問いかけていること

我が国に問いかけていること

我が国に問いかけていること

我が国に問いかけていること

18 ★ KIRA

KIRA ★ 17

尖閣沖事案が我が国に

問いかけていること

尖閣諸島の歴史

尖閣諸島は、石垣島の北北西約170キロの東シナ海に位置。魚釣島、大正島など五つの島と三つの岩礁からなる。総面積は約5.56平方キロ・メートル。

・1895年、日本政府は中国（清国）の支配が及んでいないことを確認し、沖縄県に編入。清国からの異議はなかった。

・1897年、古賀辰四郎氏の開拓事業に着手し、毎年、30人、40人と開拓民を送りこんだ。1909年の定住者は、248人 に達し99戸となる。

・1920年、中華民国駐長崎領事が中国漁民救助に対する「感謝状」（前掲）として、当時の沖縄県石垣村（現、石垣市）村民に贈った。感謝状の中で尖閣諸島のことを「日本帝国八重山郡尖閣列島」と明記。

・1951年調印のサンフランシスコ講和条約でも、尖閣諸島は、同条約第2条に基づき日本が放棄した領土のうちには含まれず、第3条に基づき南西諸島の一部としてアメリカ合衆国の施政下に置かれる。

・1960年代に中国や台湾で発行された地図にも日本の領土として記載あり。（研究者らの指摘）

・1969年、国連アジア極東経済委員会（E C A F E）の報告書で、尖閣諸島周辺の海底に石油・天然ガスが大量に存在する可能性を指摘。

・1971年6月17日署名の琉球諸島及び大東諸島に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定（沖縄返還協定）により日本に施政権が返還された地域の中に尖閣諸島が含まれている。

・1970年代以降、中国や台湾は突然、尖閣諸島の領有権を主張し始めた。（周辺に石油などの海底資源が眠っている可能性が取りざたされ始めたため）

・1971年、中国政府は外交部声明で領有権を主張。

・1972年の沖縄返還まで尖閣諸島は米国の施政下に置かれたが、中国や台湾はこの時も異議を唱えず。（読売新聞記事より）

・1992年、中国は自国の領海法で中国の領土と明記し、台湾は1999年に領土として領海の基準線を定めた。

・1996年に、台湾と香港の活動家が尖閣諸島に一時上陸し、中国旗などを立てる。

・2002年、日本政府は領土管理強化のため、魚釣島など3島の民有地を借り上げる措置を取った。

・2004年には中国の活動家7人が上陸、沖縄県警に出入国管理・難民認定法違反（不法入国）の現行犯で逮捕、強制退去処分となる。

・尖閣諸島は、沖縄県石垣市を所在地とする日本固有の領土で、政府は「領有権問題は存在しない」との見解

国力の回復が、今我が国に求められていること！

このような、尖閣諸島の歴史がある中で、今回のような事件が起こり、この中国漁船の問題の最中に、ロシアのメドベージェフ大統領が北方領土を訪問し、また北朝鮮による韓国延坪島砲撃事件などが発生し、我が国を取り巻く環境は、非常に厳しくなってきたいます。これは、中国の台頭により

東アジア地域のパワーバランスが劇的に変化したこと、同時に東アジア地域における我が国の影響力の衰退、即ち国力の衰退に他ならないと思います。国力とは、防衛力など軍事力を言っているのではなく、経済力、外交力、技術力など国家の総合力を意味します。建白書の冒頭にも書きましたが、今回の事件は日清戦争後の三国干渉に匹敵する国難であり、まさに痛恨の極みであります。この国

難は単に政権交代したために襲ってきたものではなく、外交の国難は長い年月の中で浸透してきたものであり、我が国領土への理不尽な挑戦を拒否する断固たる姿勢を欠いてきたためであります。また本来高度成長期やバブルの時期など、まさに今の中国のような、国が台頭する時期に官民一体となつて積極的外交を行わなかったことの“ツケ”が、今一気に降りかかっていると思います。

この状況を打破するには「国力の回復」しかないと考えます。この外交・安保について、私は常々言っておりますが、我が国の国民、領土を安全に守るためのものがあり、与野党で意見が食い違うことと自身が、本来おかしいのです。この問題を、決して政争の具にしてはならず、政権交代を機に、党派を超え我が国の外交・安保体制を、今こそ築く必要があると思います。

菅政権への建白書—国益の旗を堂々と掲げ、戦略的外交へ舵を切れ!

民主党衆参国會議員有志 平成22年9月27日

平和条約を締結し、シベリア・サハリン開発や対中央アジアへの共同支援などを通じ戦略的提携を急ぐべき。また、「世界の工場としての中国」の代替になり得るASEANへのインフラ整備と投資促進の支援を強化すべき。

●日中関係の根本的見直し

船長釈放以後もなお謝罪と賠償を求めるなど、理不尽かつ不誠実な姿勢を続ける中国政府に対し、拘束中の4人の民間人を即時釈放し、報復措置を全面解除するよう求めるとともに、この機会に日中の「戦略的互惠関係」の具体的な意義と内容について再検討すべき。

●戦略資源の供給リスクの分散化

レアアース等の備蓄体制の強化とともに、資源エネルギー安全保障戦略の速やかな策定と実行を図るべき。また、中国の日本に対するレアアース等の禁輸措置が確認された場合には、WTOに早急に提訴すべき。

●南西方面の防衛体制の強化

『防衛計画の大綱』見直しプロ

セスおよび日米同盟深化の協議を通じて、沖縄本島を中心とした南西諸島方面への一層の防衛態勢の強化を図るべき。併せて、海上自衛隊（および米海軍）および海上保安庁による海洋警備体制の強化を図るべき。また、できるだけ早い段階で、尖閣諸島の周辺で日米共同の軍事演習を展開すべき。

●尖閣諸島における実効支配の確立

早急に、現状の民間人所有による私有地借り上げ方式を改め、国が買い取る形で国有地に転換し、灯台や警戒監視レーダーなど構造物の設置を進めるべき。

●西太平洋における海洋秩序の構築

域内諸国のシーレーンが通る東シナ海および南シナ海における航行の自由を確保するため、米国やASEAN、韓国、豪州などと協調し、海洋秩序に関する国際的な枠組み作りに着手すべき。

●日中間の危機管理メカニズムの構築

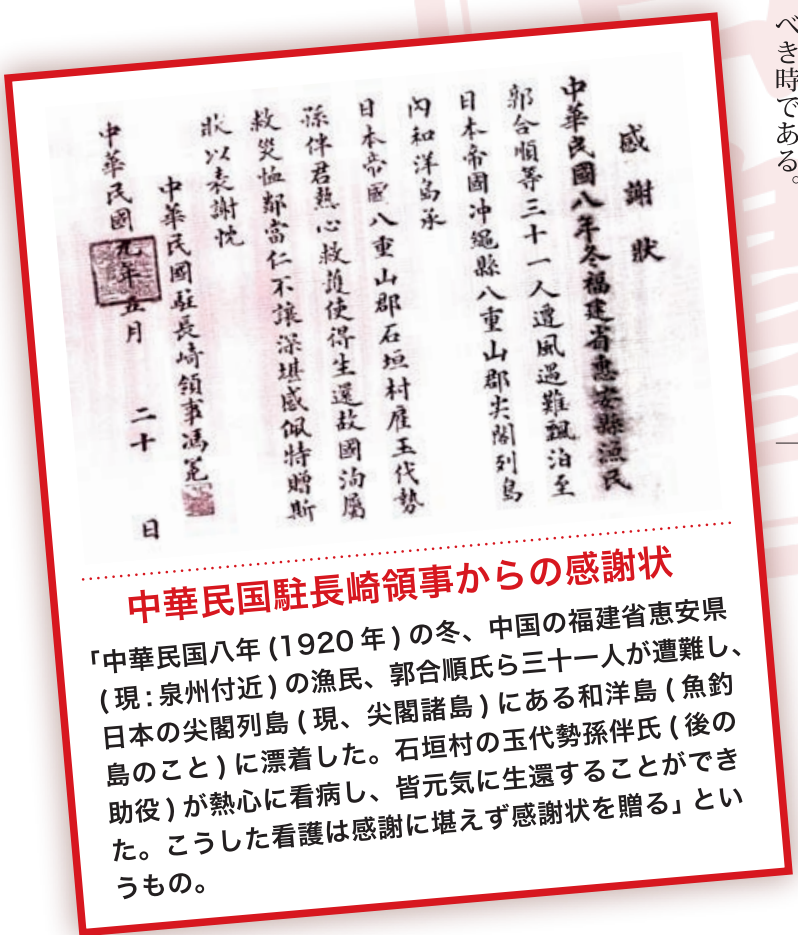
日中間の危機における対話の

ための管理メカニズムを構築し、海上における偶発的な事故防止、危機回避システムを確立すべき。

4、結語

本事案は、国家としての尊厳について我々に鋭く問いかけていると思う。いたずらに政府対応を批判するのではなく、臥薪嘗胆を旨として、将来にわたり凛として自立する国家を目指し、今こそ国民的議論と行動を興すべき時である。

一方、事件直後菅総理はじめ多くの閣僚が「尖閣諸島は我が国固有の領土であり、領土問題は存在しません」という回答を繰り返しましたが、ご存知の方も多いかもしれませんが、国民の多くは、尖閣諸島が日本固有の領土であるという、その根拠がわからなかったのではないかと思います、ここに尖閣諸島の歴史を紹介させていただきます。



中華民国駐長崎領事からの感謝状

「中華民国八年（1920年）の冬、中国の福建省惠安县（現：泉州付近）の漁民、郭合順氏ら三十一人が遭難し、（現：尖閣列島（現、尖閣諸島）にある和洋島（魚釣島のこと）に漂着した。石垣村の玉代勢孫伴氏（後の島のこと）が熱心に看病し、皆元気に生還することができた。こうした看護は感謝に堪えず感謝状を贈る」というもの。

5月17日



大分のクリエイター集団、アーティストタ
ンクPOOMP御一行が国会見学にご来訪。
議事堂内の予想以上に荘厳な建築や装飾な
どに驚かれ、期待以上でしたと、大変満足
の様子でした

4月22日



舞鶴高校2年生の皆さま(在京OB会御一行)が
来訪。冷たい雨の降る中、国会と外務省ま
で足を延ばされ、政務官室にて懇談しまし
た。吉良州司も高校の大先輩方と意見交換
出来たことを大変喜んでおりました

2月16日



富士通にお勤めの稲生氏が、同僚の浦田氏
と共に来訪。見るもの全てに感動されてい
ました。最後は国会議事堂を背に記念写真
しました。

2月16日



大分より電力総連の皆さんが来訪。委員長
室の荘厳な部屋の椅子に座り、すっかり国
会議員気分?

2月4日



大分の支援者の娘さんで津田塾大学在学中
の学生さんが友人と一緒に来訪。本会議場
入口前で「ピースサイン」

1月20日



大分より加来伸子さん、加藤さん(弟さん)が
来訪。当日、本会議開催がなかったのですが、
議場を傍聴席から見学され、議場内部の装
飾や歴史について熱心な質問を頂きました

6月2日



大分東芝労組34名の皆さんが来訪。こ
の日は、民主党代表選が、本会議場では総
理大臣選挙、首班指名などが行われましたが、
その現場に居合わせた皆さんはまさに“歴
史の証人”にもなり、記念すべき国会見学
となりました

6月15日



大分より、山上善雄様ご夫妻が来訪。参議院
本会議を1時間程度傍聴し、その後議員食堂
で昼食をし、午後は菅総理の演説を生で傍聴
することができ、大変感動されておりました

ようこそ 国会へ!!

昨年、1月から12月の間に国会見学に
いらっしゃった方々をご紹介します。

10月19日



大分市の葛谷真美さんと友人3名が国会見
学に来ました。国会内の荘厳な雰囲気感到
し、またTV等で見る国会議員に遭遇し、
皆さん満足の様子でした

9月2日



大分市の日野洋様が国会にいらっしゃ
いました。吉良兄弟と新しい議員会館
の部屋の前で写真撮影

8月4日



舞鶴高校OBの市川洋一様と奥様の寿満子様、
ご友人の姫野千里様、房前和子様が国会見
学に来られました。吉良州司との懇談を大
変喜ばれ、また国会内をゆっくり見学し、
本会議も傍聴され、普段の東京観光では決
して経験出来ない貴重な時間を過ごせたと
感激されておりました

8月5日



舞鶴高校姫野教頭と豊府高校の三原教諭以下生徒5名(舞鶴高校、上野高校、豊府高
校より)が国会見学に訪れ、国会内の見るものすべてに感動していました

12月8日



修学旅行の自主研修で、大
分豊府高校の生徒6名が来
訪。「一度生で見てみたか
った!」と、普段TVで見
る光景に終始興奮気味に国
会内を見学。この日が旅行
初日で、「もう大分に帰っ
ても良いくらい大満足で
す!」と、大はしゃぎでした

世界遺産

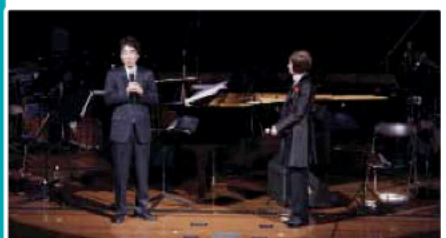
トーチランコンサート

昨年11月22日(月)に、ユネスコパトリナ
ーシップ事業として「城之内ミサ・世界遺産
トーチランコンサート」が東京九段会館・大
ホールで開催されました。
城之内ミサさんについては、3年B組金
八先生や「東芝日曜劇場」など数々のドラ
マや映画の音楽や主題歌を手掛けているこ
とは、みなさんご承知とは思いますが、最近
では「城之内ミサ・スマトラ沖地震チャリ
ティーコンサート」(カーネギーホール)「イ
ラク戦争・アラブ音楽院救済チャリティー
コンサート」(ユネスコ本部など、国際平和
のための活動を積極的に行っています。



このコンサートは吉良
州司が外務大臣政務官の
職にあるときに外務省の
後援が決まったこともあ
り、2部構成の1部と2
部の間に、スペシャルゲ
ストとして、吉良州司が
ステージに登場し、この
日のテーマである「麻薬撲滅」について、城
之内ミサさんと息の
あったトークを行いま
した。

現在日本の「ユネス
コ親善大使」が1年以
上不在の状態ですが、
既にこのような活動
をしている城之内ミ
サさんのような方に、
就任して頂き、世界を
羽ばたいて欲しいも
のです。



番外編

column

国会見学では
ないですが、「マ
スターズ陸上」
全国大会に参加
した方を紹介
します。大分市
の黄梅雄さんで
す。「マスターズ」
とは、「ベテラン
ズ」とも言われ、
その道に秀でた人、また人生の熟練者を意
味します。その陸上大会に、吉良州司は当日
公務で行けなかったため秘書二人(吉良卓
司と宮本秀憲)で応援に行きました。
昨年9月に、全国の各ブロックで「マスタ
ーズ陸上」大会を勝ち抜いた「勇者」が集
う全国大会が東京国立競技場で行われまし
た。黄さんは、全国大会直前に足を痛め、ハ
リを打ちながら大会に臨んだこともあり、
エントリー3種目のうち、100mハード
ル1種目のみに絞って出場しました。写真
をご覧になるとおわかりでしょうが、とて
も「還暦」を過ぎた人の身体とは思えない、
素晴らしい均整のとれた筋肉質の身体です。
残念ながら今回は入
賞はできませんでしたが、
が、大会終了後「次に向
けてまた頑張るけん!」
と力強い言葉を言われ
た私たち秘書の方が、「こ
っちが頑張らんと!」
と逆に勇気づけられま
した。



新世紀日本の創造

真に豊かな 日本を目指して

事務局からのお知らせ

寄附のお願い

これまで寄附をいただいたみなさんに、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。みなさんから頂いた貴重な寄附は政治活動に有効に使わせていただいております。頂戴した寄附は全て政治資金管理団体、政党支部の会計収支報告に計上し、選挙管理委員会に届出をしています。お金のからない政治活動に当初から努めておりますが、初当選から7年が経ち、公務、国会、政務、県連代表と役割も増え、それに伴い、活動の幅も広がっています。できましたら、みなさんからの寄附を政治活動の財源として使わせていただきたいと考えています。ご理解とご協力をお願いいたします。取り扱い口座は下記のとおりですが、ご連絡いただければスタッフが伺いいたします。なお、寄附は個人でも法人でも税額控除の対象となりますので、事前にご相談くださいますようお願い申し上げます。

■大分銀行 本店(法人向) 普通口座／6428365
名 義／民主党大分県第1区総支部 代表 吉良州司

■大分銀行 にじが丘出張所(個人向) 普通口座／5081725
名 義／吉良州司と元気な大分を創る会 代表 吉良州司

■ゆうちょ銀行(個人向)
記 号／17260 番 号／15330121
名 義／吉良州司と元気な大分を創る会

民主党員・サポーターを募集します！

これまで、党員・サポーターにご加入いただいた皆さん、有難うございます。特に昨年は、民主党代表選挙が行われ、ご加入いただいた方々には、代表選挙にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。さて、この制度は1年更新になっておりまして、毎年6月1日～翌年5月31日までが、加入期間であり、有効期間であります。今年の6月1日始期の党員・サポーターを募集させていただきますので、今現在ご加入の方は是非ご継続を、未加入の方は、今年是非ご加入いただきますよう宜しくお願いいたします。加入に当たっての詳細は事務局スタッフまでご連絡ください。

楽天政治・ネット献金サイト開設しました！

いままで銀行口座振込のみの取り扱いだった献金方法ですが、2009年より、インターネットでの献金が可能になりました。吉良州司のホームページ(<http://www.kirashuji.com>)から楽天政治サイトへお進みください。必要事項を記入頂ければ決済が完了いたします。みなさんからの寄附を政治活動の財源として大切にに使わせていただきたいと考えております。

ご協力いただきますようお願いいたします。

PROFILE

吉良 州司 1958(S33)年 3月16日生

1964(S39) 大分市立津留小入学、別府市立南小、中津市立南部小学校卒業
1973(S48) 大分市立城東中学校 卒業
1976(S51) 大分県立大分舞鶴高校 卒業
東京大学 文科I類(法学部進学コース)入学
1980(S55) 東京大学法学部卒業 日商岩井(株)入社(人事部)
1984(S59) ブラジル連邦共和国ジュイス・ジ・フォア連邦大学留学
1989(H元) 大分県出向(企画総室、農政部、商工労働観光部)
1991(H3) 日商岩井帰任・電力プロジェクト部
1995(H7) 日商岩井ニューヨーク(インフラプロジェクト部長)5年半駐在
2002(H14) 日商岩井(株)退職 世の中を良くしたいと政治を志す
2003(H15) 4月 大分県知事選挙出馬 肉薄するも次点295,886票
11月 無所属で第43回衆院選出馬(大分1区)当選
(1期目の委員会)予算委、文部科学委、イラク支援特別委

2004(H16) 11月 民主党入党
2005(H17) 9月 第44回衆院選(郵政解散選挙)出馬、2期連続小選挙区当選
(2期目の委員会)外務委、経済産業委、内閣委、決算行政委
2006(H18) 民主党大分県連代表
2009(H21) 第45回衆院選(政権交代選挙)出馬、3期連続小選挙区当選
鳩山内閣において、外務大臣政務官を拝命
2010(H22) 第1次菅内閣において、外務大臣政務官を拝命
外務委員会理事、民主党政策調査会外務部門会議座長

主な現職 外務委員会理事、民主党政策調査会外務部門会議座長、
民主党大分県連代表、民主党大分県第1区総支部長

これまでの職歴 外務大臣政務官、民主党「次の内閣」内閣府担当副大臣、
副幹事長、政調副会長、役員室次長、国際局副局長、

携帯HP



吉良州司と元気な大分を創る会

〒870-0820 大分市西大道2-4-2

TEL.097-545-7777 FAX.097-545-7760

U R L ▶ <http://www.kirashuji.com/>
E-mail ▶ kirakira@kuh.biglobe.ne.jp

広報誌についてのご意見、
お問い合わせなど、
事務局までお寄せください。

